

令和 2 年 6 月 30 日現在

機関番号：84604

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K16951

研究課題名(和文)古代都城における木器生産に関する基礎的研究

研究課題名(英文)A basic study on the production of wooden implements in the Nara Palace Site

研究代表者

浦 蓉子(Ura, Yoko)

独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・都城発掘調査部・研究員

研究者番号：80746553

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、平城宮・京跡から日々出土する人為的な加工が残る木材や樹皮などの植物質遺物を体系的に整理し、考古学的検討に取り組んだ。特に、多量に出土する木屑や木端等の木材加工残滓を対象とし、出土資料の分類及び細部観察の調査を実施した。木材加工残滓から平城宮・京における木工活動の一端を明らかにするとともに、平城宮・京における木材利用のサイクルを考えるにあたり有用な成果を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

都城から出土する有機質遺物は、その資料的制約から十分に研究対象とされてきたとはいえない。それらの資料に焦点を絞り、それらの詳細な観察、計測、実測、樹種同定という考古学的検討を通して木工活動の一端を明らかにした点は、基礎研究の第一歩として大きな成果であるといえる。また、収蔵されたままの資料を見出し、検討を加え、学術的意義を付した上で公に提示することができた点で大きな社会的意義があるといえる。

研究成果の概要(英文)：In this study, I conducted archaeological analyses of the organic remains from the Nara Palace and Capital Site. Especially, I focused on a large number of wood residues left after making woodworking from the Site and conducted classifying and detailed observation of them. Through the archaeological analyses of residues, I clarified detailed aspects of the wood working and acquired new findings of the wood usage Cycle in the Site.

研究分野：考古学

キーワード：平城京 奈良時代 木器製作 木屑 有機質遺物

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

平城宮や平城京跡の発掘調査においては、条坊側溝や土坑、溝などから木簡をはじめとし、木屑や樹皮、種子などの膨大な有機質遺物が出土する。しかしながら、木屑などの有機質遺物は、遺物としての位置づけや重要性が明確に評価されておらず、報告されていないものも多く、基礎的な情報が不足している。中でも、木屑は木器加工段階で排出される製作残滓であり、当該期の木工活動を直接的に明らかにし得る資料である。そこで、古代都城から出土する人為的な加工が残る木屑や樹皮などの植物質遺物を考古学的に検討し、体系的に整理して遺物の位置づけをおこなう必要があると考えた。

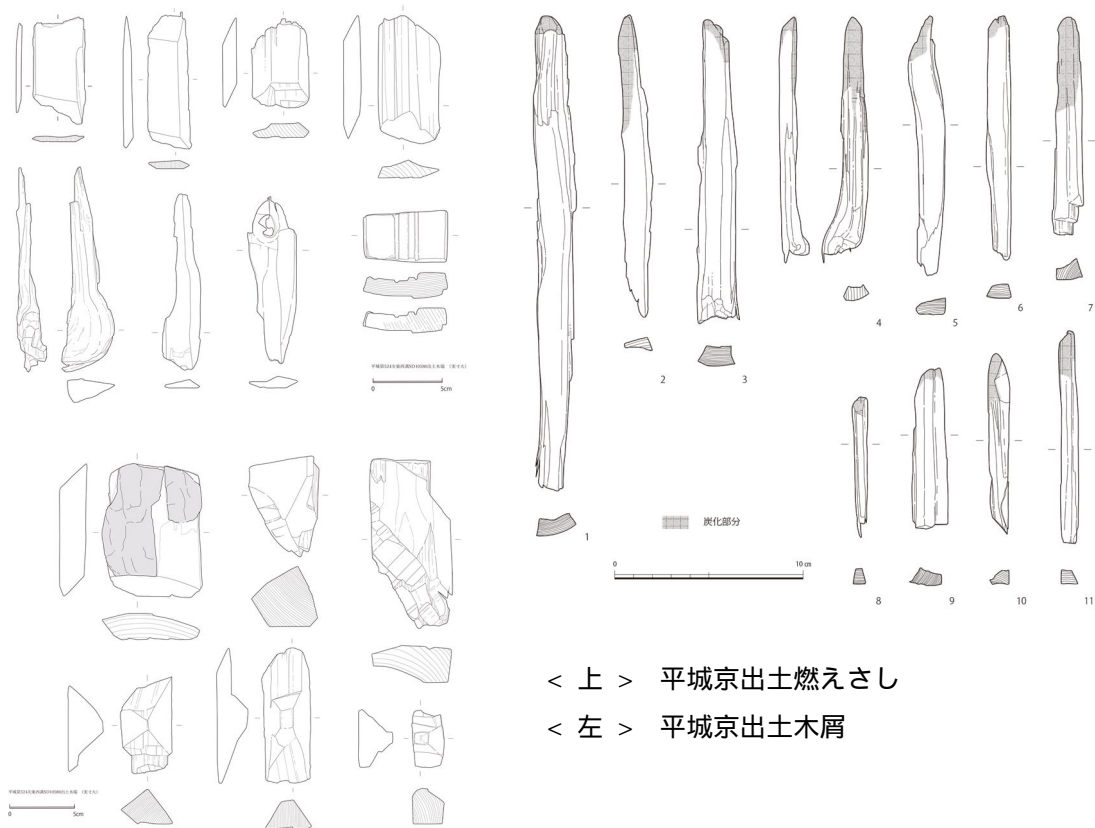
2. 研究の目的

本研究の目的は、古代都城から出土する人為的な加工が残る木屑や樹皮などの植物質遺物を体系的に整理して情報を引き出し、そこから都城における木器工房や手工業生産の在り方を整理し、解明することである。

日常生活は元より、事務作業や儀式などに多くの手工業製品を必要とした都城では官僚組織の中に工人を取り込んでいたことが文献から把握できる。しかしながら、平城宮や平城京における工房や手工業の実態は鉄製品など一部を除き不明確である。そこで、平城宮や平城京から出土する木器加工段階で排出される木屑などの植物質遺物に焦点を当て分析をおこない、平城宮や平城京における手工業の在り方を解明するとともに、当時の社会や生活における植物質資源利用の重要性を明確化する。

3. 研究の方法

本研究においては、平城宮や平城京跡から出土する植物質遺物について、出土遺構、層位が明らかな資料を対象として分析をおこなった。調査資料の多くは、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所の所蔵資料である。また、調査対象が出土した遺構は基本的に既報告のものであり、時期や性格が一定程度明らかなものである。具体的な研究方法は、遺物の観察を軸とし、研究対象の実測図の作成と、樹種同定をセットでおこない、基礎資料の提示をおこなった。また、資料の一括性を重視し、同一遺構、同一層位の資料のまとまりを分析対象とした。



4. 研究成果

(1) 平城京左京二条二坊十四坪における木工にかかわる工房の存在が推測されている奈良時代前半の土坑資料について、同一層位の木製品、切削時の加工屑、自然木等の樹種同定を網羅的におこなった。木製品、切削時の加工屑と自然木では大きく傾向が分かれた。加工屑にみられる樹種は自然木の樹種には現れず、木材として搬入・加工されたと推測できる。また、比較資料として平城宮内の廃棄土坑の木屑、自然木についても樹種同定をおこない、120点余りの樹種データを蓄積した。その結果、加工屑にみられる樹種は自然木の樹種には現れず、平城宮・京における利用材と周辺の植生に差があることを示した。

(2) 平城宮・京の木工の一例として加工の残る竹について集成をおこない、実測図の作成、写真撮影等の資料化をおこない、報告した。対象としたのは、これまでに平城宮・京跡で出土しており、遺構、層位で奈良時代のもので確定できる資料である。合わせて種同定をおこない、その多くがハチクかマダケであることを確認した。竹製品の加工が平城京内で行われていることを出土資料から示した。

(3) 平城宮内の廃棄土坑の資料から製作途中の薄板及び多量の削り屑、完成品を抽出した。平城宮内における規格のある薄板製作についての考察及びその製作方法の復元をおこなった。土坑内から出土した薄板、削片、未成品の組み合わせは、板目の薄板が宮内を含む周辺で製作されていたことを示す。

(4) 平城京左京二条二坊十四坪から出土した「燃えさし」について樹種同定の成果と遺物の報告をおこなった。燃えさしは、火をつけるもしくは火を移す役割を持つ棒状の木製品である。これらは、平城宮・京等で数多く出土する曲物や人形、檜扇など木製品には見られない、木の節の影響を受けたゆがみのある材などが多く用いられている。このことは製材時の端材の利用、もしくは建築部材などの廃材の転用を示しており、平城宮・京における木材利用サイクルを考えるにあたり有用な成果である。

(5) 本研究の目的の一つであった、平城宮跡、平城京跡から出土する木屑について、それらを考察するための方法論を整理した。あわせて、形態の分類を進めるために現代の加工具と木屑を対照させた写真図版を掲載した図書、『木屑を考える 古代の木工活動を検討するための一試論』を刊行した。出土遺物としての木屑を検討するための一指標となる重要な成果である。



< 上 > 刊行した『木屑を考える』

< 右 > 内容の一例

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 浦 蓉子, 星野安治	4. 巻 第101巻第2号
2. 論文標題 年輪年代学的手法を用いた古代木製祭祀具の研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 考古学雑誌	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浦 蓉子	4. 巻 紀要2018
2. 論文標題 平城宮・京出土の植物質遺物	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 奈良文化財研究所紀要	6. 最初と最後の頁 240-242
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浦 蓉子, 星野安治	4. 巻 紀要2018
2. 論文標題 同一材で作られた木製人形	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 奈良文化財研究所紀要	6. 最初と最後の頁 64-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浦 蓉子	4. 巻 2017
2. 論文標題 「四方転びの箱」の用途について	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 奈良文化財研究所紀要	6. 最初と最後の頁 44-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浦 蓉子	4. 巻 -
2. 論文標題 平城宮・京のヒトガタと祭祀遺物たち	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 小山市立博物館第68回企画展図録	6. 最初と最後の頁 6 11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浦 蓉子	4. 巻 -
2. 論文標題 腐りやすい道具	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『探検奈文研185』読売新聞	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 浦 蓉子
2. 発表標題 平城宮・京跡における植物利用
3. 学会等名 第30回日本植生史学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浦 蓉子, 星野安治
2. 発表標題 平城京出土木製人形の同一材検討
3. 学会等名 第35回日本文化財科学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浦 蓉子
2. 発表標題 平城京のヒトガタと祭祀遺物たち
3. 学会等名 第68回企画展 記念講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yoko Ura
2. 発表標題 Traditional usage of Cherry bark "Kabagawa" in Japan
3. 学会等名 生存圏研究所シンポジウム木の文化と科学 （招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 浦蓉子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 奈良文化財研究所	5. 総ページ数 32
3. 書名 木屑を考える 古代の木工活動を検討するための一試論	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>腐りやすい道具 https://www.nabunken.go.jp/nabunkenblog/2018/03/tanken185.html サクラの使い道 https://www.nabunken.go.jp/nabunkenblog/2016/06/tanken137.html ヤリガンナ木屑の行方 https://www.nabunken.go.jp/nabunkenblog/2020/06/20200601.html</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----